

足立議員が被災地視察

脆弱な道路構造対策必要



田村会長（右）と足立議員

自民党の足立敏之参院議員は1月31日、「令和6年能登半島地震」で被災した石川県七尾市を訪れ、被害状況などを視察した。

足立議員は市内にある七尾鹿島建設業協会（田村行利会長）の会館で田村会長をはじめとする役員らから被災状況

能登半島地震

と応急復旧作業の経過説明を受けた。同協会では地震発生の翌2日から、会員が手分けして管内における国道249号や市道、のと里山海道の道路啓開などを24時間態勢で実施。これまでにいずれも応急復旧が概成し、田村会長らは「碎石など資材の調達が一番のネックだった」と総括した。また、土砂崩壊が発生した盛り土部分などでは脆弱（せいじやく）な道路構造が露呈していると伝え、これを足立議員は写真などで確認した上で、本復旧では根本的な対策が不可欠になると指摘した。

協会からは「一番役立つのは受発注者でグループプラインをつくり、位置情報などを共有したこと。非常に迅速に対応できた」との声のほか、「本復旧工事にも地元企業の参画を」などの要望も挙がり、足立議員も「直轄での地元参画については熊本などの経験も踏まえた対応を要望している」と応えた。この後、能登島や和倉温泉での被災状況を見て回った。